

校長室だより

令和2年5月8日
ウェブ版
東根市立東根小学校

学校再開に向けた取組

4月29日に、横綱づくり実行委員の皆さんと6年PTAの方々のお力で、大げやきに横綱が奉納されました。例年ならば、6年生が市内をパレードして行う一大事業ですが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、少人数で短時間の内に行われました。それから、十日も経っていませんが、横綱をプレゼントされた大げやきは、例年以上に葉を豊かに広げ、見事な量感を取り戻しています。樹齢千五百年を越えた老木とは思えない勢いに圧倒されます。また、それが、新型コロナウイルスに負けるなという無言のメッセージのように思えてなりません。

さて、長い臨時休業期間が続いていますが、学校再開の予定日が今月の18日(月)と示されました。県内における新たな感染者数の減少と市内における感染者がゼロであるという状況を踏まえた判断であると思います。国の専門家会議によると、この感染症は、今後長期間にわたって無くなることはなく、そのことを念頭に置いた一定の行動変容が求められると提言しています。感染リスクゼロを待つならば、このまま長期間の臨時休業を続けなければなりません。そうなれば、子供の学びの保障や心身の健康等に関して深刻な問題が生じることとなります。このようなことを考えれば、専門家会議の提言通り、これから長期間にわたってこのウイルスが存在することを前提とした新しい生活様式を身に付け、学校における感染のリスクをできる限り低減しながら段階的に教育活動を再開していくことが望ましいことなのだと思います。

学校再開に向けて点検しなければならないことも数多くあります。まず第一は、子供たち自身が「自分の命は自分で守る」という習慣形成です。食事前や排便後、外から戻った時には、必ず石鹸で手洗いをしないと気が済まないほどに習慣化されているでしょうか。学校でも徹底して指導しますが、より個別に指導できるのは今です。特に、本やボールなど、誰もが手に触れるものを共用した場合の手洗いも忘れてはなりません。このような意識づくりが感染予防につながります。

また、密閉・密集・密接の3つの密を避ける学校生活を構築します。換気と座席の配置、そしてソーシャルディスタンスの維持を心掛けます。しばらくの間、授業は子供同士の対話のない教師主導の授業を行います。座席も隣同士を離すようにします。特に人数の多い学級では、座席を横一列にせず、交互にずらして距離を維持します。そして、給食時間以外は、マスクを外さないことを基本にします。多人数学級の2年生は、給食時に3クラス編成にして食べます。その他、トイレなどの共用スペースは必ず一日一回、次亜塩素酸による消毒を行います。ささやかな取組ではありますが、子供たちの学習を保障しながら、コロナの存在する社会での生き方を身に付けられるよう指導していきます。ご理解とご協力をお願いします。

